「オンライン・ラーニングの発展と教室内の教育とのハーモニー」

研究代表者　メベッド シェリフ　（法学部）
共同研究者　今村　潔　（経営学部）
ホワイト　ショーン・アラン（経営学部）
ロザーティ　サイモン　（経済学部）

2020年に新型コロナウイルスが拡大して、世界の大学や教育機関はオンライン授業に切り替えた。その時、多くの教員は初めてオンラインでツールの使い方を即座的習得する必要があり、苦悩を伴って頑張ってきた。新型コロナウイルスが広まり、オンラインツールなどを使って授業を教えるのが当たり前となってきたところ、2021年の春学期の初頭に2年目に突破して、本FD研究開発プロジェクトを開始した。そのテーマは「オンライン・ラーニングの発展と教室内の教育とのハーモニー」である。つまり、遠隔のオンラインの授業で使ってきたツールは、今後、教室内で行う授業でも使えるではないかと考える。そして、まだ使っていないコンピュター及びネットベースのアプリも導入して、より質の良い教育を実現できるのではないかと考えて本FD研究をスタートした。

本研究では、まずコロナ禍になってから英語コミュニケーションコースの教員が使っていたオンラインツールを確認して置いた。第一にズームの使用が多かった。ズームは周知のように、ライブのミーティングのために開発されたソフトであり、教員と学生との会話で使え、学生同士でもライブで話せる。学生数が10人から30人程度である多くの英語コミュニケーションコースの授業において、ズームが大変役立っていたアプリであった。またブレークアウトルームという機能があって、1つのミーティングでより小さなグループに分けて、会話の練習やその日の課題について討論できるという点で、大変便利なアプリである。またグーグル・クラスルームのグーグルミートも似たようなソフトである。両方のアプリでは、パワーポイントや映像を学生に見せて、教員を中心とする講義もでき、学生中心のディスカッションもできる。

以前から大学ではmanabaを使うことができる。manabaはニュース（ディスカッション）や、課題提出機能や、教員が事前に作ったビデオを載せることができる。それに、小テストなど

manaba でも様々な便利なオンラインツールが備えている。コロナ禍以前にも存在していたものだが、本コースの多くの教員はコロナ禍になってオンライン授業を担当することになって、初めて使用することになった。

これ以外様々なアプリを利用していた教員がいた。例えば FLIPGRID を導入した先生もいた。FLIPGRID は無料の WEB 上のアプリで、学生は自分の映像と音声を簡単に録画して、教員の設問に対して答えることができる。教員はそれを見て、フィードバックできる。また学生は他の学生のビデオを見て、それについてディスカッションができるというように授業時間外（宿題）に利用できる。従来の授業では紙の宿題を提出されていたが、それによってライティングの練習しかできなかった。当該アプリのおかげで、スピーキングの練習を宿題として実現できたということで、教育の可能性が広がった。そして、このようなソフトが他にも存在しているのではないかと考えて、本 FD 研究を続けていた。

2021 年 9 月から代表のメベッドは様々なソフトを試みた。特に役立ちそうなものの中で単語学習で使える MIKAN が浮上した。MIKAN は会話やメディアでよく現れる単語を紹介し、利用者にクイズ形式で練習をさせる。無料のバージョンと有料のものがあるので、学生に紹介して、興味のある学生（少人数）がそれによって練習しだした。また TOEFL Speaking、abceed など様々な自宅学習用のアプリが存在している。多くは年間 1 万円程度の料金を課せられる。しかし、このようなソフトを強制的に学生を利用させるのは、いかなるものかと思った。もちろん学生自身が使いたいと思っているならぜひ使っていただきたいと思うが、教科書の他に 1 万円のアプリを買わせることが難しいと思う。

そこで、当コース生の英語コミュニケーション教育を促進するには、学びの結果の評価・フィードバックも重要であることが確認でき、以前から 2017 年度・2018 年度の FD 研究開発プロジェクトの「学びの評価」を、オンライン・ラーニングとそのツールの観点から検討を行った。英語コミュニケーションコースでは 10 年以上前から CASEC（Computer Assessment System for English Communication）という英語コミュニケーション能力を判定するオンラインテストを使

い、第 4 セメスターから所属する新規コース生のレベルを測ること及び能力別クラス分けのためと、コース所属後の学習成果を確認するために 5・7 セメスターの 3～4 年生に受けさせている。しかし、従来の CASEC テストは、リスニングとリーディングの受信的なスキルを中心に英語コミュニケーション力を判定する。それに対して、本コースの授業で集中的に学ぶスピーキングとライティングの授業の成果を測ることができない。

CASEC はこれまで使ってきた検定のテストと別に、スピーキングテストを開発した。このような総合スピーキングの開発は時間がかかり、また公的な判定にならないため、龍谷大学でインハウスのテストを作るのは困難である。CASEC のスピーキングテストで、学生は声を録音して、アメリカにいる採点班によって成績が決定される。つまり、低コストで高質の外部の検定型テストによって学生のスピーキングのレベルを測ることができるという点で大変役立つ。このようなテストはインタネットが利用できるから実現できる。それに、以前から本コースの成果を測る方法が欠けているという課題があった。TOEIC などが提案として浮上していたが、上に触れた授業の内容との相違点と TOEIC の価格という問題があった。今回以前からの CASEC の大きなメリットとな

るコストパフォーマンスのため比較的に低コストの他に、オンラインであることによって学生が自由な時間に好きな場所でログインして、テスト受けられるという点も便利である。しかし最も魅力的な点は、インタンタネットを用いて、学生一人一人の発話をチェックして、客観的な規定によって評価されるということである。研究プロジェクトの予算内で60人の学生が受験でき、短期間の内に結果が出た。2年生及び3年生の受験者の結果は現在まだ分析途中だが、大きく見るとCEFRのA2〜B1以上であったことが分かった。また、同受験者のリスニング・リーディング中心となる普段のCASECの結果に比べ、スピーキングの結果との相関は0.21（有意なし）であったため、英語スピーキング力の判定は普段のCASECで測られるものと違う可能性があり、今後さらに研究する必要があると思われる。このようにオンラインサービスを使ってもらって、学生に細かい成績表によって今後の学習計画を立てられ、教員にとっても多くの学生が抱える問題を浮き彫りにし、授業で対策を考えられるという良い点が現れている。

しかし、それ以上に英語教育に役立つソフトは存在すると思われる。これまで使ったことのないアプリも視野に入れたい。そのため、オンライン教育に詳しい英語教育の専門家の助けを頼むことにした。講演者として島根大学の教授Stephen Henneberry氏を呼んで、ZOOMによって講演会行った。Henneberry氏は20年の間に様々なITツールを英語の授業に導入しており、LMS（学習運営システム）を詳しくしており、iPadを日本でいち早く教室で用いることにした教員の1人である。今回の講演で、いくつかの授業で利用価値のあるアプリを紹介した。その中で、Zengengoというアプリは顕著である。

Zengengoは東京の幾つかの大学で教える英語教員のPaul Raine先生が開発したシステムである。1人の教員がシステムを使うには年間1万3千円程度（$99）を払う。学生は全くお金を払わない。そして、教員はこのシステムで授業のコンテンツを作って学生に共有できる。しかし、龍谷大学では、manabaによって授業のコンテンツを共有するシステムがある。Zengengoに課題を出すことができる。それ以外の課題の種類の課題が出せる。例えば、教員がテーマを決定し（例えば、最近のニュースの出来事を説明せよ）、そして学生が家で、Zengengoのアプリで自分の答えの音声を録音し、そして、その音声を文字化して（タイプで入力する）提出する。全ての学生の返答が教員に見やすいように整理され、教員がフィードバックを書けるという機能が付い

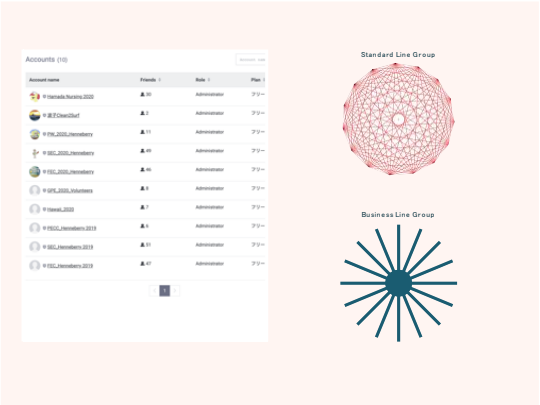
ている。また同じ Zengengo の別の課題の種類で、学生は教員が事前に入力した文章を、声を出して読み上げ、その発音の正確性についてアプリが自動採点し、学生が発音の弱点を把握できる。また、学生にとって Zengengo は無料で、登録する必要もなく、個人情報を入力することがないことも良い特徴である。これ以外の便利な機能があり、まずプロジェクトメンバー2 名（メベッドとホワイト）は登録し授業で試験的に使う準備をしており、来年度に非常勤を含めて、他の英語コミュニケーションコースの教員にも使えるようにしようと考えている。

　このように、F D プロジェクト「オンライン・ラーニングの発展と教室内の教育とのハーモニー」

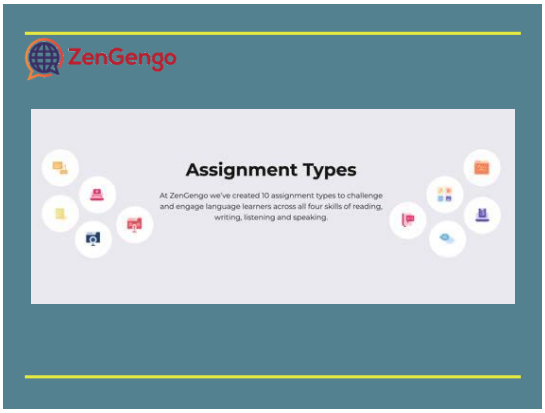
では、本コースで使っているオンラインのアプリなどを整理し、オンラインで実施するスピーキング・テストを導入し、講演者も聞けて、授業で使えるアプリのことも知ったという有意義な開発プロジェクトであった。来年度も本 FD プロジェクトを継続し、授業でさらなるオンライン・ツールを有利に使用できるように調整していきたい。

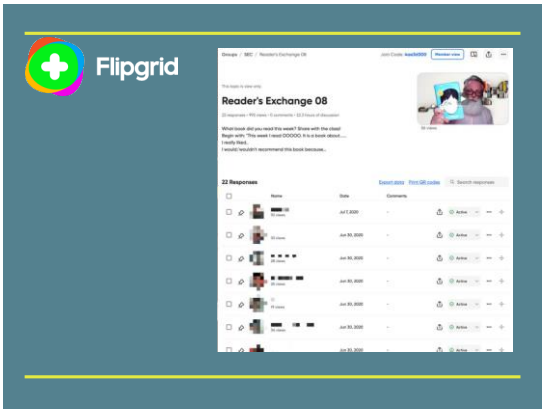
USEFUL TECHNOLOGY TOOLS FOR LANGUAGE LEARNING— ONLINE AND IN PERSON
Stephen Henneberry
The University of Shimane
Ryukoku University English Communication Course FD Research and Development Project
JAN 28, 2022

LINE OFFICIAL
Protect personal information
Create multiple "accounts"
Customizable welcome message
Business hours
Automated responses


Standard Line Group
Business Line Group

HOMEWORK
ZenGengo
Flipgrid

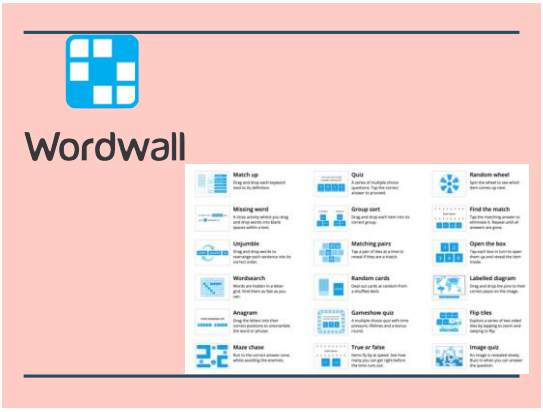

ZenGengo
Assignment Types
At ZenGengo we've created 10 assignment types to challenge and engage language learners across all four skills of reading, writing, listening and speaking.


Flipgrid
Reader's Exchange 08
22 Responses

CLASSROOM ACTIVITIES
Quizlet Live
padlet
Rory's Story Cubes
Wordwall
Click to speak

Quizlet Live

padlet
A Good Nurse is...
Group 1
Group 2
Group 3
Group 4


Wordwall

Wordwall
Spin It

Rory's Story Cubes